

多世代・家族間の交流を広める
多世代交流事業



▲たこづくりに挑戦する親子

7月24日、栖本地区コミュニティセンターで多世代交流事業が行われました。栖本地区振興会が、多世代・家族間の交流の輪を広げることを目的に実施し、8組の親子26人が参加しました。「久玉しろやま文庫」の皆さんによるおはなし会、栖本地域婦人会によるピザづくり体験などを実施。昔あそび体験では「天草たこの会」の指導で、オリジナルたこづくりに挑戦。親子で協力しながらたこづくりを行いました。

伝馬船をこいで水俣へ！
ざぶざぶ海の道



▲けんめいにろをこぐ参加者

7月17日、御所浦アイランドツーリズム推進協議会の主催で、江の口港(御所浦町)から丸島新港(水俣市)までの13kmを、伝馬船をこいで渡る「ざぶざぶ海の道」が開催されました。水俣からの海底送水が今年で39年目を迎えることから、水俣への感謝(39=サンキュー)を届けようといわれたもの。町内の小学生など30人が参加し、伝馬船2艇を使い交代でろをこぎながら、約5時間かけて渡りきりました。

夏のスイーツを楽しんで！
いちじく天草南蛮柿フェア試食会



▲試食会のようす

「天草南蛮柿フェア2016」の試食会が8月9日、本渡商工会議所で行われ、イチジクを使用した菓子やパスタなどが観光関係者などに披露されました。16世紀後半にポルトガルから天草に伝わったイチジクは天草で「南蛮柿なんばんがき」と呼ばれ、夏のフルーツとして親しまれています。8回目の今年は新商品14品を含む全24品が、9月30日まで本渡と苓北の菓子店など15店舗で販売されています。ぜひご賞味を！詳細は天草南蛮柿島プロジェクト(本渡商工会議所内)☎2001へ。

▶虫追い旗競技で旗を掲げコースを回る参加者



虫追い旗競技・もち投げでにぎわう
一町田地区虫追い祭りイベント

7月17日、河浦小学校グラウンドで一町田地区振興会主催の“虫追い祭りイベント”が開催されました。5色の虫追い旗をつけたおとな20m、子ども5mの旗ざおをもちコースを回る虫追い旗競技に23人が参加。10周年記念のもち投げなども行われ、300人の来場者でにぎわいました。終了後には、地元住民など100人が虫追い旗を手に一町田川の堤防を練り歩き、豊作を祈願しました。

日本の文化にふれ交流を深める
姉妹都市エンシニタス市から学生が来市



▲華道体験のようす

7月29日から8月5日まで姉妹都市・米国エンシニタス市の学生3人と同市職員1人が教育交流事業の一環で本市を訪れました。期間中、学生たちはホストファミリー宅にそれぞれ宿泊。8月3日の牛深中学校生徒との交流会では書道と剣道を体験。また、久玉地区コミュニティセンター(久玉町)では、茶道、華道、琴・尺八の演奏を体験。日本の文化に触れながら、交流を深めていました。

大きなタイをつかまえたよ！
御領海の日フェスタ



▲タイをつかまえた子ども

7月18日、五和町の黒崎海水浴場で“御領海の日フェスタ”が開催されました。海に親しむことを目的に御領地区振興会が毎年行っているもので、約130人が参加。

魚のつかみ取りでは、子どもたちは網で仕切った中で逃げ回るタイをずぶぬれになりながら捕まえていました。参加した小学生は、「大きいタイをつかまえることができうれしかった」と話していました。

藻から自動車を動かす燃料を！
バイオ燃料実証施設完成



▲培養プールを視察するようす

自動車部品メーカー(株)デンソー(愛知県刈谷市)が、7月27日、五和町の旧五和西中学校跡地に藻類からバイオ燃料を生成する大規模培養実証施設を開所しました。同施設は、約2haの敷地に20・40・80mのプールを各1槽設置。軽油成分を含んだオイルを生成する微細藻類「シュードコリスチス」を培養し、年間で約1,200リットルのオイルを抽出する予定です。同社では、平成30年にバイオ燃料の実用化を目指しています。

“はまぼう”を觀賞しながら散策を楽しむ
第4回はまぼう祭り



▶スタンプラリーウォークのようす

7月17日から23日まで、新和町大宮地川河口付近のはまぼう群生地で、「第4回はまぼう祭り」が開催されました。期間中、県内外から約500人が訪れ、パークボランティアによる群生地ガイドの説明を熱心に聞き入っていました。23日には、はまぼうクイズなどに答えながら約4haの広大な群生地を巡る「スタンプラリーウォーク」が開催され、約120人がはまぼうを觀賞しながら散策を楽しみました。